

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
3【そなえる】	⑬⑭⑯ 地域を知り、被災地の現状を知ることによって、 これからの防災のあり方について考える。	総合的な学習の時間

【題材】

災害に備える

【対象】

1 学年

【実践の概要】

地域学習を通し地域の様子や伝統について知るとともに、被災地についても学習し、この沢内での防災のあり方を検討する機会とする。



【実践の詳細】

- 7 月 9 日（火）
 - 午前・・・郷土料理
 - 午後・・・町内調べ学習
 - 沢内の偉人…深澤辰雄記念館
 - 沢内の自然…碧祥寺資料館
 - 沢内の保健…沢内庁舎保健福祉課
 - 沢内の教育…沢内庁舎教育委員会
 - 沢内の産業…農家レストラン
 - 沢内の観光…沢内バーデン
- 9 月 2 5 日（水）
 - 震災の状況を知る（事前学習）
- 1 0 月 1 0 日（木）宿泊研修
 - 宮古市田老町訪問
 - 震災学習
 - ・田老防潮堤の様子
 - ・現地の実際の様子を確認
 - ・たろう観光ホテル（6階）での津波VTRの視聴
 - ・グリーンピア三陸みやこ多目的アリーナでの避難所生活や仮設住宅についての学習
- 1 0 月 1 5 日～2 5 日
 - 文化祭展示に向けまとめ・発表
- 1 1 月下旬から
 - 理科の授業で地震についての学習
- 1 2 月 3 日（火）
 - 防災についての学習（総合）



【授業の展開】

第1学年 総合的な学習の時間学習指導案

日時 平成25年12月3日(火) 6時間目

学級 1年A組 男子11名 女子 9名 合計 20名

題材 三十余年の昔話(沢内村史より抜粋)

*昭和11年8月に川舟小学校元校長高橋善二氏が1896(明治29)年8月31日に起こった陸羽地震について記した手記。その中の「罹災者の思ひ出話」の一部を使用した。

段階	学習活動	指導上の留意点
導入 5分	1 宿題の確認	・自分の家で防災として取り組んでいる事はなにか 〔生徒からの解答予想〕 防災グッズを揃えている 家具が倒れないようにしている
	2 本時の確認	題：三十余年の昔話
展開 35分	3 三十余年の昔話を読んで考える。 設問1 それぞれ4名の話で印象に残ったことは何か。	・自分たちが住んでいる地域でも、現在の様子からでは考えられないような災害に合うことがある。さまざまな備えが必要である事を気づかせる。
	設問2 4名の話や10月に行った震災学習を参考に震災前に備えておくこと、災害後に行うことは何か。	・日常生活で備えておく事、震災後の行動をグループで話し合いを行い、今自分たちができることを考えることができる。
10分	4 まとめ	・なぜ、本時の学習が「三十余年の昔話」という題であるのか ・この文章を書いたのが、川舟小学校元校長高橋善二氏ということを知る ・高橋氏はどのような思い出のような手記を書いたのか考える → このことを後世まで伝えたい。 ・3月11日に経験したこと、震災学習で学んだことなどを30年以上経ってもみんなが伝えていくことが大事である。それが地域の防災に繋がっていくことを理解する。
	5 今日の感想	・今日の感想を記入する。



【生徒の感想】

- 昔も今もとても恐ろしい出来事があったことを知った。僕はもしものために、避難訓練などをしっかり行い、冷静に判断し、落ち着いた行動がとれるようにしたいと思った。
- 西和賀でも断層ができるようなとても大きな地震があったことを知って驚きました。体験者の人達の証言はその災害の風景が浮かんでくるようでした。これから、10年先、20年先に大きな地震がやってくるかもしれないけど、先人の人達の知恵を借りて、防災をしっかり行い、無事に避難したいです。

【まとめ】

総合的な学習の時間を使い、1年間復興教育を意識して取り組むことができた。

地域を知り、被災地を実際に見ることにより、生徒は自分のこととして復興あるいは防災を考えることができるようになってきた。今後は機会を捉えながら、地域の防災を意識して指導していきたい。

【保護者の感想】

沢内で実際に起きた地震とその被害について学ぶことにより、沿岸で学習してきたことがより自分のものとなったのではないかと思います。これから地域を支えていく子ども達が震災や防災について学ぶことはとても意義のあることだと感じました。